

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100841		
法人名	企業組合 つどい		
事業所名	グループホーム つどい		
所在地	静岡県沼津市東椎路1502-2		
自己評価作成日	平成28年3月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyousoCd=2271100841-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スーパーや薬局、病院等が近くにある利便性の高さと静謐な環境を両立。600坪の広い敷地の中で伸び伸びと穏やかな生活ができる環境にあります。食材や植木など四季折々の変化を楽しめる努力も怠りません。医療連携が十分に稼働する中、30数例の看取りも経験しております。最後まで心穏やかに過ごしていただける施設でありたいと思っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年2月に市内鳥谷から現在の東椎路に新築移転しました。根方街道に近く、銀行、スーパーマーケット、パン屋、コーヒーショップ、ドラックストアと商業施設が集積する閑静な住宅地に立地しています。玄関正面には山草が植わった落ち着いた中庭の出迎えがあり、サッシ窓には障子戸が付き、リビングの入口は格子戸風と和風旅館の設えで、またすべてにおいてスペースが広くなり、心理的なゆったり感も向上しています。移設に伴い、職員の働きやすさとケアサービスの充実について「よい改善機会」と捉えての取組みも始まり、新たな「つどい」の歴史のスタートに期待が膨らんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理解し共有できていると思う。	「愛し、生かし、許せ」は分かり易い一方で深みがあって実践には難しい面もあるとして、まずは「職員間の輪、人間関係」に注視して、管理者がフォローすることに努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コメダコーヒーのモーニングは順番に利用し、コンビニで買物も日常的に楽しんでいます。	引越して1ヶ月余りですが10年運営してきた経験から、自治会加盟など順を追ってやるべきことをおこなっています。隣からはミカンが届き、近所のパン屋では利用者と伴におやつを購入して、顔見知りを増やしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に相談できる場所作り、又、外に向けての情報発信に努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームを理解して頂き、ともに支え合える関係の構築に努める。	毎日の業務に追われる中、運営推進会議の開催はなかなか年6回には至りません。移転したことを契機に「やらねばならない」から「やってよかった」になるよう「運営推進会議を活かす」ことを考えたいとしています。	自治会長、民生委員など主要メンバーの希望を予め入手して年間計画（例、奇数月の第三火曜日）を定め、前月の案内状、議事録の送付を以て開催していくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開かれたグループホームであるよう風通しを良くする努力を惜しまない。	移設については何年も前から行政に打診をしており、係る事柄に協力してもらえました。介護相談員は昨年に引き続き同じ人が毎月来訪し、顔なじみとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の尊厳を守る事は余力ある人員や介護力も重要と考える。	身体拘束ゼロ宣言をおこない、定期的な勉強会で職員には周知しています。現在対象となる利用者はいませんが、やむを得ず必要となった場合に取るべき書面、段取りも備えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	くり返し、話し、学ぶ事により職員の意識を高めるよう努める。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	共に学び、話す機会を持ち理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に、わかりやすい説明と、聞きやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外から見えた方には、必ず何か気になる事は無いかなと尋ねる習慣があります。	決まっていますが、折にふれ家族には状況を綴ったり、撮影した写真はアルバムに収めています。毎月の支払は事業所に来所してもらっているため、最低でも月1回顔を合せて話す機会があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや担会議など活発な意見交換があります。 押しつけではない現場を心掛けています。	忌憚のない意見が常から挙がっています。移設に伴う補充ではなく「高齢化したパートタイマーに長く働いてもらいたい」との思いから増員して一人当たりの勤務時間数を軽減させている例からも、従業員満足が覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小さな職場の特性を生かす。 即断即決、正しく見る、聞く話す。 など		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人に合わせた指導。 特性を生かす。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	貢献できることは何か。 お返し的人生としての役割。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取りが主となるが、早期に居心地の良い場所作りができるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に傾聴し、方向性を示している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を決め、今できることからするよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族としてとらえている。 支え合うという意味合いです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちにできない唯一のことは家族とのかかわりと考えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居心地の良い空間作り、来客との距離を大事にします。	面会時間は特に設けず、家族からの連絡には夜間も開錠しており、昔近所だった知人、お稽古事に通った仲間の訪れもあります。また事業所の番犬ポチも一緒に引っ越して癒しの時間も絶えまなくあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	丸テーブルは私達のこだわりの1つです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から近況報告を頂いたり、頂き物があつたり、お返しをしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な場面も多いですが、表情から多くを汲み取るよう努めています。	丸いテーブルに皆で集い、こちらからの声掛けに反応も確かで、日頃のコミュニケーションの充実が受けとめられます。「ニーズを汲み取ろう」との管理者の姿勢は多少差はあっても職員には浸透しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や書面を参考にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	規則正しい生活の中で、個々の特性を生かした過ごし方に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の担当者、職員全員の意見、夜勤者など、担当者会議で話し合いプランに反映している。	担当職員が利用者の状況を把握し、担当者会議で生活状況を報告したり、課題を提起しています。原則6ヶ月毎に計画書を見直し、期限が切れる前に新しい計画書の原案を作成しています。モニタリングについては全員で確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有とプランの改善は月1度の担当者会議を利用し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さな施設の特性を生かし、きめ細かなサービスに常に努める。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者のニーズに合わせた個別の対応に留意する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意見を尊重しながら当方の専属医との協力関係を築く。	月2回の往診プラス全体検診1回がある協力医に全員が交替しています。ほぼ毎日足を運び、診療日でない人も少し気になることがあれば診てくださり、親身な対応に助けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診記録、訪問看護記録はわかりやすく記載し、共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者への係り、又、退院後の受け入れ体制など、密に話し合われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは30数例経験しています、医療連携も十分稼働している結果です。	看取りの実績も30例を超え、また管理者が宿直担当として寝泊りしていることもあって、職員に不安はありません。様々な看取りを通じての経験が豊かなため、本人だけでなく家族にも満足ゆくお見送りができることが自慢です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	レジメを作り定期的に勉強会も行っています。十分対応可能であると考えます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自分達で守る体制作りと、地元の方に協力頂ける関係作り。皆さんのお力になれる余力。	移設前に年2回の法定訓練を終えています。移設後は未だ実施はありませんが、夜勤帯が日々防火チェックをおこなっています。また非常持ち出し類が搭載されたリュックサックを3セット注文しています。	移転間もないため、避難場所等緊急時に求められる情報整理を急ぐことを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護能力や技術と同じか、それ以上に大事な事と捉えています。 言葉の持つ力、こわさも又、自覚していきたいと思います。	呼称「～ちゃん」も本人がそう呼ばれたい、家族がかまわないならばよいとして、笑声が混じる親しみあるやりとりが在ります。職場の風通しは高く家族からの苦言が管理者に挙がってくることも質の担保になっています。	「だめよ、だめよ」「また～」とお嫁さんの関わりがややみられますので、一度職員間で省みることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の流れはほぼ決まっていますが、自由に過ごす時間はそれぞれの好みで過ごせるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全な環境の中で、安心して過ごして頂ける努力。 自由な生活であると思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	動きやすさ、配色、素材など細かく配慮しています。 個性も大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、食事作りは職員が行っています。 皮むき等、できる方は参加しています。	ポテトサラダも丁寧にこなされており、キュウリの飾り切りからも丁寧な取組みが感じられます。「食事は味だけでなく雰囲気も大事」との考えから器や盛り付けにも凝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量は記録されています。 食事に問題の見られる方は早くに医療との連携をとり、経腸栄養剤なども利用しながら対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の勉強はしていますので、皆対応可能です。 汚れは当然ですが、口臭にも十分気を付けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内での排泄に心掛け、各人に合わせた指導ができています。 パット類の軽減は常に適した物が使用できるように話し合われています。	現状トイレ誘導で、排泄の自立が叶っていません。「このパットでは大きい、小さい」の意見交換ならびに提案が職員にあり、またDVDによる実技研修もおこない、本件における介護技術の安定が図られています。	「清潔度が限りなく高い」を前提としてトイレの棚に関連グッズ以外のものが置かれていますが、一度検討することを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックノートにより管理できています。自然の排便に心掛け、申し送りでは必ず職員に周知するように行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、午後の入浴です。 ゆったりとした時間が流れる中、全身観察もきちっとできています。 「あー気持ち良かった」との言葉が嬉しい介助です。	着脱やドライヤーの外介助、湯船担当の中介助、誘導の中間介助と3名で、一人では湯に浸かるのが難儀となったケースでも中間介助が手伝いできています。乾燥予防に保湿効果のある浴剤も導入しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠できる清潔な寝具、年齢や状態に応じた1日の過ごし方など細かな援助に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートを活用し、全員が理解徹底できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴が生かせるよう支援しています。 新しい事へのチャレンジも刺激になっていいですね。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外でお茶を飲んだり、コンビニや近所のパン屋さんへ出向くなど個別の援助ができています。	商業集積地域ということもあって早速パン屋やスーパーマーケットへの買い物にもでかけ、散歩コースもほぼできつつあります。事業所所有の車輛も2台あり、少人数単位での外出ができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身近なコンビニでの利用は日常的に行われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頂く事が多い。 皆で話す話題作りにもなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームからの景観、いつも明るく清潔な空間、室温や換気など十分配慮された日常。	移設前同様、清掃と換気が抜群です。玄関正面には中庭の出迎えがあり、格子戸風と和風旅館の設えで、またすべてにおいてスペースが広くなり、心理的なゆったり感も向上しています。ウォーターサーバも備わり、利用者が自ら操作することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各人に合った時間の過ごし方、共同生活としての過ごし方などメリハリのある1日であるよう心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物は自宅から持参して頂き、清潔な使いやすい居室作りを心掛けています。	「馴染みのものを～」と呼びかけてはいますが、以前居住の利用者・家族が置いていった家具をもらい受けた居室もあり、持ち込みはテレビ以外ほとんどみられません。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人のできる力を生かした、寄り添うケアを大事にしています。		